

平成26年度 第1回市政モニターアンケート集計結果

若者定住・子育て応援施策に関するアンケート

○アンケート期間:平成26年8月30日～平成26年9月22日

○アンケート回答者数:46人

Q1 あなたの身の回りに、人口の減少、少子化または高齢化により大きな変化が起きていませんか。また、それはどのようなことですか。

「起きている」と答えた方のご意見

1	区の行事の時、80歳近い私にまで参加を求められ困っている。特に力仕事、草刈りなど。
2	子どもたちの声がほとんど聞こえない。それは、淋しいどころのことでなく次(々)世代への警鐘とも思える。私も高齢者の一人であるが高齢世代が増えても、今日社会的意味がない。医学が発達するのはよいが、それは健康寿命のためであってほしい。私は個人的だが、自分の意志が認められ、ここぞと思った日、それほど苦しまずに死ねる薬が使える時代の到来を望んでいる。宗教や倫理観の見直しこそ求められる。
3	私の地区では、小学校の入学生が「0」というように人口の減少が激しく、高齢化(65才以上の率)も35%を超える状態である。
4	小、中学校の近くで地域の中心部で人家も連なっていますが、小1の孫が集団登校する上級生が誰もいないし下級生となる幼児も全く存在しない。
5	今年になって、村の80歳以上の方が4名亡くなりました。亡くなる方ばかりで、生まれた子どもはいません。亡くなって、既に空き家になっている家もあります。亡くなった方がされてた田んぼがJAへ委託されています。
6	子ども会の人数が少なく(5家族7人)、ラジオ体操、納涼祭、キャンプ、何をするのも家族みんなで参加しないと何もできない。
7	働く場所(会社、事業所)が少ない。 ハローワークにしても、特定の職業が多く出てるなと感じました。
8	息子2人(30歳～35歳)不安定な仕事の環境の中にいる為、生活の基盤が弱く親が生活を支えている。将来は？
9	私の居住する地区は、新旭駅に近く、住環境が比較的良いと思われているのに、年寄り夫婦だけの世帯が多く、今後空き家が年々増加することが予想される。
10	若者の定着・定住が進まず高齢化が益々進んでいる感じ。 限界集落が多くできてくると思われる。
11	①広瀬小学校がなくなる。 ②祭りのみこしを担いで歩くことが出来なくなった。 ③上古賀区の組長をする若者が居ない。 ④村でやる作業に人数がいないのでつかれる。
12	市政モニターのほとんどの人がおじいちゃん。
13	①少子化による、小学校の統廃合(平成27年度から) ②区や自治会の弱小化 ③放置田畑の増加、林野の荒廃の拡散
14	最近、集落で遊ぶ子どもの姿を見なくなっています。これは、少子化や高齢化の影響だけでなく、遊びや生活環境の変化が関係していると思いますが、子どもが少なくなっているのも事実であると考えます。(期待されている大きな変化とはどんなものかが分かりませんが)

Q1 あなたの身の回りに、人口の減少、少子化または高齢化により大きな変化が起こっていませんか。また、それはどのようなことですか。

「起こっている」と答えた方のご意見

15	私が住んでいる地域の4丁目というところは高校生以下が誰もいない。 ここ何十年と掃除等のメンバーの世代交代が全くない。 本当に少子高齢化を感じます。
16	人口減少、少子化・高齢化そのものです。 前10年たたない内に6件が空き家になった。10年で19%減少している。 今まで毎年10人の子どもが小学校へ通っていたが、今は2人になっている。 65才以上の高齢者も10年前より10%増えている。 この現象は1944、5年頃から始まっているように思われる。この年ごろから特に長男も就職先を都会に求め、地元から出て行っているのが目立つようになっている。
17	同じ活動をしている同世代の人が減ってきている。 事業、イベントなど、活動する人が減ってくると、盛り上がり、規模にも影響がでる。
18	①公園に行っても子どもがいない。子どもの友達の家までが遠く、親の送迎が必要 ②仕事で関わっていて思うのが、高齢者夫婦での生活のため、少し高い所が取れない、片づけられないなどがある
19	世帯、集落、産業の後継者不足 (増加していると目に見えて実感するのは、葬儀用施設事業者および介護用施設事業者) 農地や河川などの保管理状況の荒廃化(コミュニティでの管理力の限界) 市町村合併や学校統合への流動化(数の多い所へと併合されていくこと)
20	①子どもの数がこれ以上減ると、子ども会が隣の集落と合同になると聞いています。 ②(勝野の)Aコープが閉店するため、買い物難民になりそうです。
21	近所の子どもたちが少なくなり、同級生の数を聞くと、自分たちの頃の3分の1ほどになっていると聞き驚いたことです。
22	以前と比べ、同居家族が少なくなり、高齢化(高齢者の●、又は一人)現象で、当然少子化傾向である。ただし、新興住宅ではそうではない。
23	①区自治会の人口減少・少子高齢化による担い手の不足。 ②地域の子ども会の消滅及び子どもの減少による活気がなくなってきた。
24	人口減少により、自治の組織体制が難しくなってきた。たとえば婦人会、青年団、老人会などが無くなったことで個別の相談窓口が無くなり、自治会運営に支障が出てきている。
25	学校の生徒数の減少 それによるクラス数の減少
26	若い世代が都市部に出ていくため集落が高齢化している。 地域の子どもが減少している。
27	住んでいる地域(集落)では、まさに少子高齢化が進んでおり、地域に残っている若者が少ないです。 小さい子どもが近所に全くいない為、娘を遊ばすには車で移動して集落以外の場所まで連れて行ってあげる必要があります。
28	(自分の学区ではないですが、おとなりのマキノ北とマキノ東) ①少子化による小学校の合併 ②一つの集落内でも少子化による子どもの点在があり、身近なエリアで行われていた活動(ラジオ体操や集団登校など)が出来なくなってきた場所もあります。
29	現在、住んでいる町内の自治会にはいくつかの組がありますが、高齢者夫婦の片方がなくなり、その後、一人生活も難しくなった人は市外にいる息子さん、娘さんのところへ移り住んだり、施設に入ったりして人は減り、二つの組が一つにまとめられ一組になりました。
30	引っ越し等で子どもたちの学校の人数が減っていった。

Q 1 あなたの身の回りに、人口の減少、少子化または高齢化により大きな変化が起こっていませんか。また、それはどのようなことですか。

「起きている」と答えた方のご意見

31	①小学生の数が加速的に減少しています。 ②地域でも数年すると準限界集落になると思われます。 ③特に農業での後継者不足は深刻です。
32	私の地区(自治会)は、京阪神地方より転居してきた高齢者夫婦が多いので、自治会の中では既に「支えあいボランティア」組織ができて(活動している)いる。
33	ご両親が近くに住んでおらず、小さな子どもさんが熱を出したときなど、子どもを預ける先が無く、病児保育も時間が限られているため、共働きの親御さんやひとり親家庭の親御さんが大変。またファミリーサポートセンターでも、感染症の子どもさんは預かることが出来ないため、資源が限られている。
34	小学生が減っている。今はまだ大丈夫だが、集団登校がこれから成り立つのかどうか。 田んぼが減っている。このまま農業をする人が減っていけば食料の供給量が減り、食糧難が起こらないか心配だ。
35	現在、住んでいる地域は、山間部の集落で、高齢者が集落から、介護施設に移動したり、お亡くなりになったりで、人口減少が目に見えてわかる状況です。それによって、自分が住んでいる借家に隣接しているいくつかの家は、空き家になっています。
36	大きな変化は起こってはいないが、徐々に少子化と併行して高齢化は進んでいるようです。
37	地域の祭りが人手不足で年々縮小してきている。母校の小学校が子ども不足によって将来的になくなるかもしれないとのこと。
38	子どもの数が減り、小学校の統廃合が進んでいます。今がいいのか、もう少し討論が必要なのか、今すべきことが理解されていない。
39	高齢化で近所に子どもが少ない。若年層の集落からの流出が進んでいる。

Q2 あなたにとって、人口の減少や少子化、高齢化によりどのようなことに

1	高齢化により困ることは現に12世帯あったわが組も8世帯になり火事などがあつたときに助け合いに困る。
2	将来的に両親の介護の可能性が高くなり、自分の仕事の都合にも支障をきたすと思う。また、自分の子どもたちも自分が老後のときに見てくれるか不安である。
3	少子化は若い人たちの考え方により何とかなりそうに思う。それより労働人口が減少し、働けない高齢者が増えることを最も案じている。年寄りを適当にあしらうのは問題としても、生きている間は他人の世話になりたくないし、体が不自由になれば(私もなりかけている)生きる権利同様死ぬ権利も行使できる社会観が、特別な目で見られないような社会の到来を望んでいる。
4	地区全体で取り組まねばならない事業(農業関係・祭り・防災等)が、高齢化により徐々に困難になってきた。区全体として今後の維持に不安を感じている。
5	自治会などの地域行事、事業などの継承が不可能になりつつある。
6	お葬式が多いです。お葬式のたびに、出費があり、これから先ずっと支払いが続きます。田んぼをする人がなくなり、その後の田畑は、JA、アグリに契約し依頼されていらっしやいます。したがって、周りの田畑は多くはアグリに田畑になっています。小規模農家がなくなっていくます。
7	何でも邪魔くさいことは省略傾向にあるので、古き良き伝統をうけつぐ人がいなくなっていくと思います。
8	人口の減少や少子化、高齢化で、交通(バス)の運行が減少するのではないかと不安を感じる。今は、購買に対して、パソコンや宅配やご近所で困らないけれど、近況歩行や自転車でも、危なくない道を整備してほしい。 自動車[大型車両、小型車両]と自転車を分離した道が高島市や安曇川駅近くまであればうれしいです。今は、バスが村～村と運行していて助かっています。
9	年金収入のみの上、先が細い生活への転換の為、生活の質を落としていく事も視野に入れる必要がある様です。不安がいっぱい。
10	年寄り夫婦二人だけで生活しており、何代も続いた家が私の代で空き家になる可能性がある。また、今後どちらか一人になったとき、近くに見守ってくれそうな人がいない。
11	地域に活力がなくなる。 地域力が低下する。・・・さらに住みにくく感じる地域になる。
12	中国・韓国の日本への侵略を食い止めるのには、日本列島は日本人がたくさんいて、どんな小さな島にも人、または自衛隊が駐留していることが大事。自衛隊員の人数を多くし、尖閣諸島、対馬、竹島、日本人の土地、企業秘密の流出を食い止めよう。
13	活気がなくなっていつて、地域の活動がなくならないか不安。
14	①現在、個人としては特別に感じているわけではない。 ②地域で活動する団体等は、次の世代の地域や活動の担い手がないという声は昨今耳にする。特に、地域産業の担い手(農林漁業他)が減少してきているとの声をよく耳にする。
15	人口減少について、何が問題なのでしょう。人口の減少とはいつの時点からして減少なのでしょう。日本の人口は終戦時7200万人程度でありその後、急激に増加し、2004年の1億2800万人をピークに減少傾向となっています。ピーク時からすると減少となっていますが、歴史的に見たら、今でも日本の人口は最大に近いと考えられます。問題は、人口何人が適切なのかということなどを想定していないことではないでしょうか。
16	現在は困っていないが、ここ数年でいわゆる区の役割を果たす組長が、場合によっては老人家族のために受けることができなくなり、担当できる家族の数も減ってくる。
17	集落に活気がなくなった。 集落の行事ができなくなるのではないかと。 自分は不安を感じることはない。

Q2 あなたにとって、人口の減少や少子化、高齢化によりどのようなことに

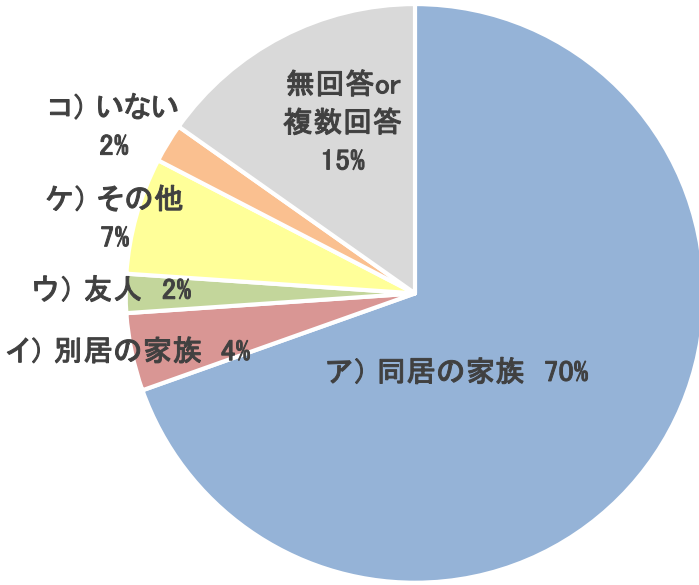
18	この先、この高島市に住んでいて、人口が減っていくと、今の仕事が続けていけるのだろうかと不安に思う。
19	現在38歳、子どもが5歳、自分が60代になったとき、今みたいに介護が大丈夫か？今でも介護の手が少ないのに…。 子どもが大きくなって、私たちがお荷物になって、たくさんお金がいるのではないかな？
20	共助力が衰退していくこと(災害、冠婚葬祭、集落活動、見守り、活力などなど)
21	人口の減少や高齢化により交通の利便性やお店などが無くなっていき、住みにくい環境になっていくのではないかな。
22	家から離れたところに畑を借りていますが、隣の畑のおばあちゃんが引退宣言され、せっかくの田畑が荒地になるかと思うと残念でなりません。
23	現役世代の税負担の増加
24	自分の子どもの学校が心配です。(朽木)
25	上記アの現象により、以前は各地区(字)毎で組織されていた青年団活動や婦人会活動等も縮小(又は消滅)して、人とのつながりやお互い様の助け合い精神が薄れているように感じる。 特に災害時における地域での自主防災組織の確立等、住民全体の意識の向上が大切では…と感じる。
26	①人口減少によるこれまで出来ていた従来からの風習やお祭りが継続できない。 ②当区では既に小学生の数が1名と子どもの数が激減している中で区の存続。 ③区や自治会が存続できなくなった際にどうになってしまうのか？ ④区内の高齢者が増える中で見守る側の数は減る一方でどこまで支え続けられるか。
27	若い世代の就業先が高島市内でなかなか見つからないことから、市外にその就業を求めため、場合によっては家族との同居が困難となってきているように思える。 このことから極論的に言うと家族制度の崩壊、強いては集落組織の崩壊が懸念される。
28	地域の行事(掃除や祭りなど)に参加できる人数が減少すれば運営が不可能になる地区が生まれるのではないかな。
29	地域文化・伝統行事の役が弱年齢化(6年生⇒5・4年生等)しており継続が出来るか不安。 区や神社・寺・各地域会などの参加者が高齢化している。後継者がいないため、将来性(運営面、経済面)が不安。 現在5万人余りの市人口がこのままの出生率が続けば20年後には半減するぐらいの危機感が必要。 全国的人口減少、更に都市部に人口流出する。今後の勤労世代の人口動向が問題、生まれた段階で20年後の勤労者人口は決まる。(=税収) 国、県、市の各段階の国民一人あたりの負債は、現段階でも高額になっておりさらに膨らむ。財政はさらに悪化する。
30	特段、困っていることはありません。従って、これから先どのような不安を感じるかという問いにもお答えができません。
31	義祖母も含め、隣近所には90歳以上のお年寄りが数名ご健在ですが、若い世代の方が少なく、日々何かと気をつけてあげなければいけないことも多々あります。日中子どもと二人きりの時に、隣の一人暮らしのお年寄りが誤って植木に火をつけてしまい、子どもを家に残して消火を手伝ったこともあります。幸い火事にはなりませんでしたが、若い方が誰も居なかったので、お年寄り子どもだけの平日日中の時間帯は特に不安を感じています。
32	①農業従事者の減少による、田畑の空地化、人口減少による空き家の増加で地域環境が悪くなること ②地区によっては高齢化が進み、区として成り立たなくなる可能性がある事

Q2 あなたにとって、人口の減少や少子化、高齢化によりどのようなことに

33	地域の環境整備や自治運営に頭数が減少していく事は、やらなくてはいけないことが変わらない中、それぞれ各世帯の負担も大きくなっていく。 そのような負担があまりに大きくなっていくと、新しくそういった地域に移住しようとする人たちの覚悟やハードルが高くなってはいかないものか・・・
34	人口の減少は高島市だけではありませんが、若い人が少なくなると町に活気はなくなり、税金等が減り市の財政が苦しくなるのではと思います。財政が苦しくなると、行政からの市民への支援やサービスも減り、市民として困って行くことが増えるのではと心配です。老老介護は増え、除雪作業等、高齢者だけではどうしようもないことが出てくるのではと不安です。
35	子どもが通う学校の部活動について。 生徒数減少でどのように変わっていくのか不安である。
36	年金の支払われる額がどのくらいになるのか不安です。 自営業なので、人口の減少は売り上げにひびくので困ります。
37	出生率の低下は問題ですが、世の中の仕組み、価値観が大きく変わり、昔のように子どもが多く必要でなくなったように思われます。今までのような子どもと大人の繋がりがなくなった。高齢化により、中堅から若者の負担が大きくなっています。それにより地域自治がますます弱くなっていくのが懸念されます。
38	現在はまだ元気であるが、将来のある時点で身体の活動能力が低下したときに、どのような介護が受けられるのか？と思う。
39	集落に子どもが少なくなり、下校してから近くに遊び相手のいない子どもが増えているのでは。学童も利用していない世帯の子どもは、遊びを通しての経験が他の世代と比べて減っているのでは。
40	上に書いたことだが、集団登校をする意味があるのか？私自身、集団登校をしたことがないので、並んだりしたりする時間が無駄に思える。少しでも早く帰ってこれたらいいのに。子どもの数が減り、一緒に帰る人がいなくなっても集団登校はするのか？ これも上に書いたことだが、田んぼが減ると食料の供給量が減るだけでなく洪水も起こりやすくなると思う。田んぼなら少しだけは水量が増えてもこらえられるが、放棄された土地では水はそのまま流れてしまい、水害の原因になりうる。
41	住んでいる集落は、移住してきた時点で、少なく、高齢者が多いため今後さらに減少していく状況なので、不安になります。集落の住民にあまり危機感がないのが、さらに不安です。集落の人口減により、市内の他の地域に比べて、住民サービスが十分に受けられない状況が出てくるのでは、と漠然とした不安があります。
42	人に頼らず、自分でやると決めるとできるものです。根本的な考え方を身につけると不安はなくなる。
43	災害など大規模な地震等が発生したとき、助け合える人が少なくなっていく。高齢者による事故の増加やバスなどの本数が少なくなっていくこと。
44	若い者が街へ都会へ行きたがる傾向や年寄の世話における施設の不足
45	集落の共同作業での高齢化で、年寄りがいつまでも参加している。当家でも子どもが都市部に居住している。(高島では)就職先が少ない。

Q3 あなたにとって、日々の暮らしの中で最も頼りにしているのは誰ですか。その方（組織）は、今後どのようなようになっていけますか。

(1) 日々の暮らしで最も頼りにしているのは誰ですか？

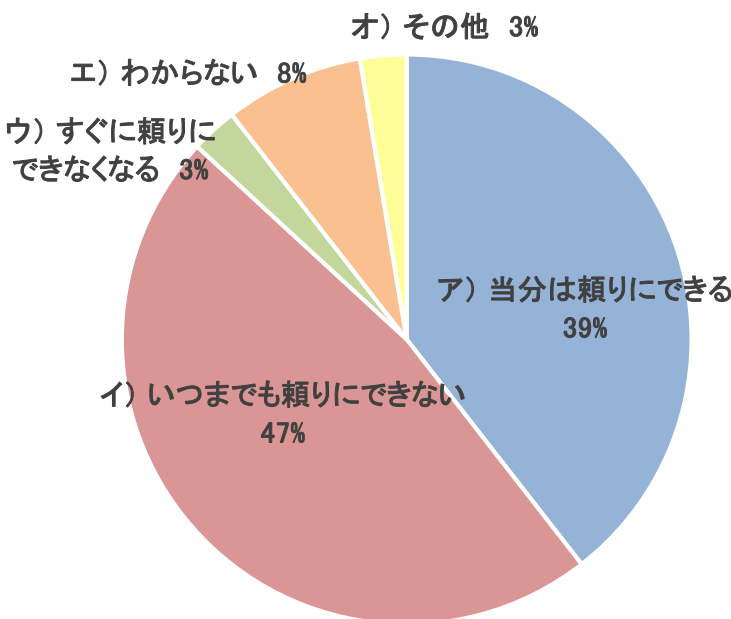


n=46

回答	人
ア 同居の家族	32
イ 別居の家族	2
ウ 友人	1
エ 隣人	0
オ 自治組織	0
カ 行政機関	0
キ 福祉関係の団体や施設	0
ク 民間会社・有償サービス	0
ケ その他	3
コ いない	1
無回答or複数回答	7
合計	46

※「ケ その他」の内容
 ・高島市市民劇実行委員会
 ・実家の両親
 ・自分自身

(2) その方(組織)は今後どうなっていくと思われませんか？
 ※前項でア～ケと答えられた方が対象 (n=38)

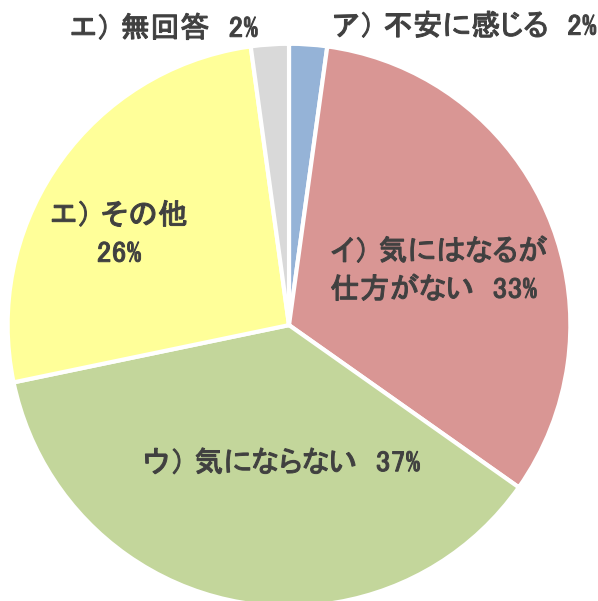


n=38

回答	人
ア 当分は頼りにできる	15
イ いつまでも頼りにできない	18
ウ すぐに頼りにできなくなる	1
エ わからない	3
オ その他	1
合計	38

※「オ その他」の内容
 そのうち体力・気力がなくなり
 安らかに死を迎えるのみ

Q4 近所に新しい住人が移り住んでこられることについて、不安を感じることはありますか。最もお考えに近いものに1つ○をつけてください



		n=46
	回答	人
ア	不安を感じる	1
イ	気にはなるが仕方がない	15
ウ	気にならない	17
エ	その他	12
	無回答	1
	合計	46

※「エ その他」と回答された方のご意見

1	地域に溶け込む姿勢の方なら歓迎する。
2	自治会に入ってもらうことを前提に歓迎する。
3	中国人スパイがいないかを気をつけている。中国政府は情報機関員を日本に送り込み、日本の国防情報、企業秘密、土地、政界の捜査を企てており、いずれは日本乗っ取りをする目的がある。田中角栄ですら甘い言葉にだまされた。中国は孫子の兵法で挑んできている。
4	新しい住宅なので、隣の空き物件が若い夫婦が来てくれてうれしい。
5	交流に後ろ向きの方でなければ不安が軽減されます
6	田舎社会は個人情報保護法とはあいまって、その素性がある程度開示された中で形成されてきたものであると理解している。よって、全く素性のわからない方が入ってこられてもその自治が受け入れられるまでには相当な時間が必要と思われる。すなわち素性を見極めるに時間がかかるということである。良しにつけ悪しにつけ田舎とはそういうもののように思う。以上のことからほとんどの人が内心不安を抱くように思う。
7	悪い人でなければ特に気にはならない。
8	喜ばしいことと思います。
9	新しい住人が、就労時間の不規則な方だと、なかなか顔を合わせる機会がなく、お互いを理解する機会が少なくなる。
10	うちはいつも新しい住人側だったのでよくわからないが、私が古い住人側ならうれしい。転勤族だったので、近所の人は常に新しい人ばかりだったので不安だとか気になるなど言ってもらえなかった。ただ、古い人ばかりでなく、新しい風を通すと必ず新しいアイデアが出る。
11	自分自身、約4年前に移住してきた者で、地域の方の新住民に対する不安の気持ちは、若干推測できる部分は、ありますが、不安な気持ちだけでは、人口が減少していく状況は変わらないですね。
12	私自身も移り住んだ人間なので、良い関係を築いていけたらいいと思う。

Q5 全国的に人口の減少が進んでいきますが、こうした中、市や地域はどのような方向を目指すべきだと思いますか。（目指すべき地域像は、どのようなものが良いと思われますか。）

1	高島市が26年度に取り組む重点事業として18の応援関連の施策を発表しておられますが、これ以上になすすべを思いつきません。もしこれ以上のアイデアがあれば目指すべき地域像となどのんきなことを言っていないで賞金を多少なりつけてでもアイデアコンテストなど行われてはどうか。
2	やはり子どもを増やす。子育てしやすい地域とすべき。子育ての支援の充実。
3	小さいときは地方で育てられ大きくなれば都会へ行く若者たちの考え方は、やむを得ないのではないか。地方に働く場がないのが最大因、働く場を地方へ持つてくることは地方議員らの考えているように簡単にはいかない。残念なことだけれどすたれていく地域は公費で解体し、一定の人口がある町に移り住んでもらう他ない。しかし、ここでもまた働く場の有無が問題になる。私の今精一杯考えられることは、「ふるさと納税」を義務付けること。しかし高齢者も甘えてはならぬ。行政は同じ人を色々な場に引っ張るのではなくて、可能な限り平等に「働ける場を提供」するよう考えてもらいたい。
4	①地域の協力体制(コミュニケーションの確立)を強化する ②若者が働ける社会(企業誘致等) ③安心できる医療体制・子育て体制の確立
5	高島市としての方向性、理念をしっかりと示し永続的に全市民にする 人口減は日本国全体の問題であり一過性の対処は好ましくない 恵まれた自然と穏やかな人間性を損なうことはあってはならない 堅実な生活を営む市民が納得できる自治体であってほしい 横着ものを許さない規制の強化、景観を守る、安全確保のための住居などの建築条例の見直しなど。 また、給食費の未納や公営住宅の家賃未納など許してはならない。 保育や義務教育に対する積極的な施策は今後も続けていただきたい
6	人口減少は、悪いことばかりではないと思います。 適正な人口で持続可能な社会を目指せばよいと思います。 地方でこそ、元気な社会をつくることは可能で、「幸せ度」日本一のまちをつくることできれば、その結果、人口は増えると思います。 持続可能な町とは、食、エネルギーを自給し、自立した町で石油などの化石燃料の消費で、市外に出て行っていたお金が地域で回り、市民は、収入が多くななくても、暮らせる町です。高島は、食べるものは程々にあり、暮らしやすい、穏やかな暮らしができる町です。 企業の誘致ではなく、地元の資源を活用した事業を地元で創り、雇用を生み出すことが必要です。賃金は少なくとも、みんなで仕事もシェアすればいいと思います。 可能性は多くあります。もっと知恵を出しましょう。
7	①働く場所の確保(市内) ②市外へ仕事に行くには、JRが止まりすぎ、本数が少なすぎる。交通面の整備
8	高島市の市政の取り組みはいいと思う。企業を、高島へ誘致と今ある企業を活性する業務を、行う場所を作ってほしい。
9	3丁目の夕日の時代の組織、背景への再生は可能？
10	人口の減少は、一定の施策である程度遅らせることはできても止めようがない。 今後は、地域(区単位)で生活弱者を支える仕組みを確立すべきである。
11	地域の良さ魅力を再認識し、特色ある地域づくりを行う。移住者が住みやすい施策(住宅環境整備等)を実施し、他地域(田舎暮らし思考の住民)からの受け入れを促進する。
12	食糧の自給自足をするために、農業を知らない人のために講座を設け、休耕地のあっせんをする。
13	市外に住んでいる人を呼び込んで、高島市から出ていく人を減らす。

Q5 全国的に人口の減少が進んでいきますが、こうした中、市や地域はどのような方向を目指すべきだと思いますか。（目指すべき地域像は、どのようなものが良いと思われますか。）

14	市町村合併に伴う行政区の統合とは別に、小さなエリアでのコミュニティの再構築が望まれる。旧市町村区・小学校区でのまとまりを意識した市民レベルでの顔の見える関係の再構築を図る取り組みや、それらの情報共有・交流を可能とする市主導のネットワーク化。横軸と縦軸のように……。特に市主導のネットワーク化については福祉や自治等、横断的な連携が望まれる。このような経緯から、昨今希薄になりつつある支所機能の充実を図ることが、また、支所機能的ノウハウを有する組織の設置が諸問題の解決とまでは行かなくても、有効的と考えられる。
15	まず、市として人口はどれぐらいが適切と考えるのかが必要と考える。そして、理想的な人口想定を、実態や将来推計と併せどの様にすべきかを検討する必要がある。つまり、想定した人口が今より多ければ、増加させるための施策が必要であり、少なければ、人口減少が想定人口で止まるような施策が必要になります。人口減少は極度に進まない限り、また、人口の減少が恒久的なものでない限り、空間のゆとりや環境面での改善など悪影響だけではないと考えられます。
16	地域らしさを活かしたが行政をするらしさとは、都市のまねをしない。 ある程度のインフラは必要となるが、無駄なものはつくらない。 あるいは、自給自足か循環型社会を目指す。
17	住みよい町作りをする。 高島市になって10年になりますが、まだ旧町村のようでまとまりに欠ける。 これでは住みよい町とは言いがたい。
18	もう少しターゲットを絞った政策を打ち出してはどうか。 どうしても人口の推移に沿ったものになりがちだが、“子育てをするなら高島”とか、“子どもを産むなら高島”といったようなものはどうかと思う。共働きの子育て世代を狙うことで、将来的な見通しも立ちやすくなるのではないかな。
19	若者定住で外の人を高島住んでもらおうという取り組みも必要だと思うけれども、現在ここで住んでいる人が「高島にいたい」と思う気持ちを作った方が良いのでは？ そうなると、外からも入ってきてもらえるように思う。 人口減少はある程度しょうがないように思います。子ども、今1人ですが、2人以上産んでも生活がなりたないと思うから、どうしてもたくさん産めない。2人で働いていたら、なんとか子どもが2人いてもやっていけるとは思う。
20	「活力」をそこに注ぎ込むあるいは助長する仕掛けを推進すべきだと思います。結局は流動化させてしまった社会的構造が相当に問題があったと感じます。 思い切ったモデルプランとその実践が必要であると思いますが、現実的にUJターンなどで高島市へ移住・就業されている方も存在します。こうした方たちがお持ちの志は高島市の中でも山村地域におけるそれが多いのではないのでしょうか。 (例えば統廃合される3つの小学校に各地域の支所機能を移転する＝マキノ支所、今津支所、安曇川支所の位置＝そこから地域振興計画を描いてみる＝意外と面白いのでは)
21	かなり難しいことだとは思いますが、居住地をできるだけ集中させる。市の収入の面から見ても、今後減少していくと思われるので、広範囲をカバーしていくよりも効率よく予算が使えるのではないかな。また、より助け合いや子ども等の見守りもしやすくなり、お店等も出しやすい環境になるのではないかな。
22	老人が暮らしやすいまち。個人のお店が閉店するのは仕方ないとして、JAが閉店するのは問題あり。 JAバンクやまごころホールで利益を上げている(?)なら、地域の福祉に貢献すべきではないですか。行政の方で指導してください！ 老後の不安のあるまちに若い人だって不安なはずですよ。
23	都会の方々に高島市の良さをアピールして、移住の際に補助金や制度を設けていけば良いと思います。
24	①地域の良さを発掘、また、地域の良さを子どもたちに伝え、地元で頑張ろうという意欲を持たせる。 ②団塊の世代の経験を伝える(地域の良さ、組織力の大切さ、etc) 暮らしやすい住民同士の付き合い方(コミュニケーション)を学び、絆を深める

Q5 全国的に人口の減少が進んでいきますが、こうした中、市や地域はどのような方向を目指すべきだと思いますか。（目指すべき地域像は、どのようなものが良いと思われますか。）

25	まず、第一に高島市は外から来る若者等の定住等には力を入れているように思われるが、まずは、高島市に生まれ、高島で生活し、高島で暮らしていこうとしている地元の若者に対する支援もしていけないのかと感じる。地元の若者が不安無く地元で結婚し暮らしていけるような、例えば高島市独自の婚活支援や出産や育児に関する支援金など、今いる若者やこれから生まれる新たな命への支援、地域住民による子育てマイスター制度的な支援案などももっともっと進めるべき方向ではないでしょうか？
26	田舎社会の原点である自治を形成するにたる人口は必要であるが、過度に人口を増やすのではなく、一種閉鎖的な高島であるがゆえに守られてきた高島の素晴らしい観光資源を守り育てていくことこそが高島の目指すべき地域像であり、このような方向を目指すことにより、人口減少もおのずと解決していくのではないだろうか。拙速な対応はとらずじっくり将来を展望することが望まれる。
27	人口が減少するのは避けられないことだと思うので、その対策より若者に住んでもらえるようにすることが大切だと思う
28	ベッドタウン 自由と保守の両立 自由(就職、結婚など)保守(定住、出産、伝統、地域、自然)
29	全国的にも、高島市においても人口の減少を少しは抑えることはできるでしょうが、かつての高度経済期のような人口増は難しいです。 そこで、以下の2点を提案します。まず、「少数精鋭型まちづくり」を目指すために、住宅地をコンパクトにまとめることです。限界集落あるいは、それに準ずる集落を見直すことが必要不可欠です。そしてまとまった集落である住宅地を作り、コンパクトシティを創ることを提案します。 次に、近隣の県や市と連携した「コラボレーション型まちづくり」を提案します。高島市のお隣の福井県や若狭地方の市や町と互いに協力して、観光等の事業に取り組むことが望ましいと考えます。このような取り組みによって人口減少に伴う市民負担を軽減してすることにつながると思います。
30	都市部への人口集中の流れはやむを得ないことだと思いますが、都市と農村との交流の中で、都市部の人を受け入れていくことのできる地域が良いと思います。例えば、数年前に実際に高島市がモデル地域となり実施した「子ども農山漁村交流プロジェクト」もまさに、都市部の子どもたちを受け入れ、農村での体験活動を地元の方との交流を交えて実施することで、豊かな心を育むという国の事業ですが、今になってようやく全国的に広がりを見せています。何十年単位でこういった都市部と農村の交流事業が継続すれば、若者の地方の見方がかわるかもしれません。以下、仕事をする上での個人的考えですが、観光協会でも、都市部(特に京阪神)からの教育旅行の誘致を積極的に実施しており、特に近年は学校団体の手配業務も増えてきています。子ども時代に経験した、いわゆる“田舎体験”が、将来、地方に興味を持ってもらえるルーツになればとの思いもあります。また、受け入れはできれば地域の若者世代(担い手)に積極的に働きかけをしています。結果、担い手育成・定住促進につながればとの思いもあります。都市との積極的な交流によって自活できる地域を目指すというのも高島市のひとつの地域像だと思っています。
31	仕事をしていても安心して妊娠、出産、育児ができるよう社内、地域の意識改革が必要だと思う。また、職場、地域で安心して子どもを預けることができる施設、サポーターが必要だと思います。昔のように、地域の子どもたちをわが子、孫のように接してもらえる地域になればうれしいと思います。
32	必ずしも人口減少をネガティブにとらえる必要はないと思います。 人口の減少に伴い、これまで求めきれなかった質的なものの向上を追求してゆける地域づくりに力を入れていけば良いのではないのでしょうか？
33	①行政は委託や支援ばかりではなく、高島市の豊かな自然を生かして、市として事業を起こしたり、高島市のブランドを作って収入を図ることを考えてみてはいかがでしょうか ②日本の良さを残してほしい
34	公共の交通機関をはじめ、生活しやすい市になってほしい。
35	安心して子どもを産み育てる環境があれば、人口減少に歯止めはかかると思う。 大学を卒業するまでの教育費を税金が上がったとしても保障してくれるのなら、子どもを産みやすい。学校だけでなく、習い事なども何割か負担してくれるとありがたいのではと思います。

Q5 全国的に人口の減少が進んでいきますが、こうした中、市や地域はどのような方向を目指すべきだと思いますか。(目指すべき地域像は、どのようなものが良いと思われますか。)

36	人口増加から人口減少を前提に考えを移行していかなければならない。子育て世代の満足度を高める。住環境の整備、地域の優位性、特に自然や環境を生かした企業、専門機関の誘致(例:発酵関係専門の研究所、等)やはり高島の特色を生かし、こだわり、本物、癒をもとめられるまちづくり、地域づくりが重要になっています。高島ブランドの構築、魅力ある“文化のまち高島”を目指すことが若者の定住の一助となると思われます。
37	以前より言われているが、「都会に近い田舎」をさらにPRすべきである。 「田舎に住もう」に類する月刊誌がいくつか(数誌)あるが、高島市の紹介として200万円の交付金を筆頭に若者定住促進条例を継続的に掲載すべきである。(当然、予算が必要)
38	若い世代が暮らしやすいよう、子育てにおける資源やサービスをさらに充実させてほしい。
39	大阪方面への朝早い時間の電車を増やすべき。仕事はやはり大阪まで行く人が多いので、今津からでも通いやすい時間にあるといいなあ。6時から新快速があるといいのに。 それから、以前に島根県の隠岐の島町に住んでいた時、保育園の保育料は同時に二人通うとき、二人目はただでした。これはかなり助かりました。
40	ただ人口を増やせば、というのではなく、他の地域でも取り組んでいるように、仕事を携えて移住してくるような人たちを取り込むような施策をすべきです。 または、地域で仕事を創り出そうとしている人達を呼び込む政策・・・ビジネス特区、空き家紹介だけでなく、空き店舗、空き工場等の情報の掘り起しと、それらの情報の公開
41	人口の減少には原因があること。子どもを産んでも安心して子育てができるよう、社会が補完すべき。それには金も精心(神)も含めて援助すべき。金はいくらあってもきりがなし、各自自治体とも金がないが、優先順位をつけ、出来ないものは出来ないのがガマンしてもらうこと。
42	何かに特化するなど、ほかの地域が取り組んでいない独創的な取り組み、制度の新設(ふるさと納税などは大変評判がいいようです)。そしてやはり防災に強い町や高齢化が急速に進むなか、福祉の充実等は欠かせないと思います。
43	子どもたちが卒業後、町に残ることや、帰ってこられるような町づくりが必要 何もかもが平均ではあるが、何か特徴のあるもの、目立つものがない
44	「日本の田舎代表」になればいいなと思う。安易な便利さや近代化から一線を引いて、「地産地消」「地場産業」等、すでに高島で取り組まれているような事業に似合うような「田舎らしい」都市計画をしたらいいのでは。長浜や京都が町屋でまちづくりするように、高島では集落や郊外をスプロール化させず、小さい村々を際立たせるように耕作地や里山、森林を保全して大切にしたらいいと思う。 また、廃村や限界集落も昔暮らしミュージアムなどとして村の生活全体を展示するような形で、保全していけたら面白いと思います(イタリアかフランスにそのような村がありました。実際に住んでいる家の一部を曜日限定で開放するような村です)
45	敦賀市では、子どもの出生が多いと聞が、子どもへの支援が十分されている様子。子どもを育てやすくする方向への施策を多くする。

Q6 若者等の定住を促進するために、市民レベルで取り組めばよいと思う

1	私の孫は大学3年の時に事業アイデアコンテストに優勝して、30万をもらって起業し毎日忙しく走りまわっています。今年4年になります。インターネットでそのことを知った会社から採用したいと言ってきたそうです。高島市も市内のモニター等と言っていないで全国からアイデアを募集したら案外良いアイデアが集まるかもしれませんよ。
2	若者が高島での生活を楽しめるようにサークル的な活動を増やすなど。(仲間を増やし、出会いの場を増やす) またそれらのリーダー役のリーダーを創出する取り組み。
3	政府の言うように農業の活性化は可能とは思えないが、その一方で、何か考える余地はあると思う。残念だが、高島は魅力ある街ではない。「集団農場」高齢者が土いじりを考えて来てくれても、若者の定住とは無関係。琵琶湖や近隣の山川を考慮に入れて、娯楽施設をつくるのも無駄。元金も戻らないだろう。それより全国から働けない高齢者を呼び込み、「施設産業」でも考えてはどうだろう。その人たちをケアする若者にしっかりした勤労感を持たせることができればと思う。でも若者の定住には結びつかないだろうなあ!! そもそも仕事に優劣間のない社会にすることだ。上司、部下の感覚がなくならねば。
4	小学生・中学生・高校生とのコミュニケーションを高める。 地域の活動への参加を勧める。(地域になじんでもらう)
5	スポーツや音楽など楽しい仲間と離れたくないと思うように、そのような活動に対する積極的な支援
6	若者が高島に移住するためには、家、仕事とともに、自給のための田畑が必要だと思います。資金的裏付けもあって田舎に移住する場合はいいのですが、それではなければ、家づくりにお金も、時間もかけなければならないのは、挫折する場合も多いのではないかと思います。したがって、住宅を提供する場合は、二つの方法が考えられます。空き家活用の場合は、空家のリフォーム事業、空家をシェアして住めるようにリフォームして貸し出す事業を市民でつくるのが望まれます。もう一つの方法ですが、菜園付き、田畑付きの家があると田舎暮らしのハードルは低くなると思います。公的または、民間で菜園付きの住宅の建設を行う。事業として行うが、公的補助も必要だと思います。
7	子どもに高島の良さを伝え、子どもも高島で子育てしたいと思ってくれるようにする。
8	人口が移転し、減少する年齢もあれば、増加する年齢もある点です。これを見ると生活しやすい。しかしながら、就職する所はない。学区は、そのため親の関係で、外へ転出していることです。いろいろ若者を定住する施策していますが、この地域には大企業や事務所がなく、この地域には医療関係が少ないので、医療を受けるときは他県に流れていることです。大企業と、医療関係の誘致をがんばってほしいです。
9	おせっかいな「じいさん」「ばあさん」あつまれ
10	高島市には仕事が少ないので都会へと若者は流れる。かといって企業を誘致するのも難しい。市内にある既存の会社を元気にする方策を考え、雇用を促進できないか。(道路整備、特別税制、補助金等)
11	市民レベルでは難しい・・・市が雇用拡大につながる施策を打つべき・・・。
12	芸能プロダクションを作り、興業をして収益を上げる。高島は宝塚市やラスベガスを目指す。東京やハリウッドに行かなくても芸能活動が高島市でできれば若者は自然と集まってくる。沖縄アクターズスクールがよい例だ。高島版AKB48を市民の力でつくろう。クール高島を実現させよう。
13	同じ地域に住む人たち同士で、人間関係をよくして仲良くする。
14	若者等の定住を促進するためには、その地が住だけの対象としてだけでなく、生業要素としていけるような起業の開拓、住み続けたいと思えるような人間関係の構築など、行政もパートナーの一員として市民レベルでの横断的で柔軟な連携組織の構築が必要かと感じられる。併せて、定住意識の芽生えの機会として、小・中学生を対象とした企画を検討し、移住者のみならず、この地に生を受けた市民の定住・Uターン意識の醸成を図る。

Q6 若者等の定住を促進するために、市民レベルで取り組めばよいと思う

15	資料の年齢別人口を見る限り、人口のへこみがあるのは30～34歳と45～49歳であり、若者定住の意味が何なのかがはっきりしません。(若者が多くなればという考えを否定するわけではありませんが)このグラフから判断するに、むしろ0～9歳あるいはそれ以降の年代も含めてピークの60～64歳の人口の半数しかいないことで、これは出生率に影響しているか、上記のへこみの年代が少ないことにかかわりがあるかではないでしょうか。この表からすると、出生率をあげる取り組みが必要と考えます。
16	働く場所がなく、道路事情も悪く、風が吹けば止まるような電車があり冬には雪が降るこの地では今のままでの延長線は絶対無理でしょう。あきらめたほうがいいとおもいます。 唯一可能なことは、農業が産業となり、企業がコラボをして産業の創生と働く場所の確保。
17	子どもを含めた若い人たちとの交流、これはすでに自治体でやっているところもあると思われるが、若い時から自分たちがこの町に必要だと、存在感的なものを持ってくればいいのか。
18	小さいことかもしれないが、知人、友人などに高島はこんなに子育てがしやすい場所だとか、子どもを産むとこんなにいいことがあるだとか、市民全員がセールスマンになってみてはどうかと思う。そのためには、もっと市民が市の政策を理解しなければいけないと思うが・・・
19	高島では仕事が少ないように思います。福祉関係しかない(が多い)。なので、何か仕事をつくる？例えば、他まで行って買い物しているのを市内で買えるようにする。服、アクセサリ、小物など？身近なものはこちらでも買えるよ的な発信をできるだけ地元で買う、なんかはどうですか？
20	コミュニティビジネスを具現化させる場所を作ること。 例えば、高島市が収入財源としている道の駅あどがわからの納付金縮減を辛抱できるのならば、本来は地域産業育成のためにある(現況、コンビニがテナント経営をしている)地元農産物等販売施設をコミュニティビジネスの場として地域還元活用させるなど市外企業誘致ではなく、若者が暮らして充実感のあるコミュニティビジネスにチャレンジできる空間(起業支援や雇用創出)として活用してはどうでしょうか。立ち寄り率が極めて高い環境条件なので成功率は相当高くなることでしょう。(指定管理者側としても定住のまちづくりに対する貢献度がアップします)
21	近隣の方による住宅確保支援で活用する空家の維持・管理。 定期的な室内、室外の清掃や、空き家の見守りを行ってもらうことで、移住者が決まった場合に親近感が持て、スムーズにコミュニケーションや親交が図れるのではないかと。
22	JR湖西線の新快速時間を早朝にも、夕方にも増便する等々、都会へ行きやすく(働きやすく)するべき！(風対策も) 若者からもっと行ってみたい！住んでみたい、魅力のある町づくり。
23	①団塊世代の力の結集(地域力アップ) ②若者の本音を聞く会の開催 ③心身ともにゆとりのある働き方の工夫、改善 ④定住を促進するための啓発(一般住民へも) 気軽に相談しやすい体制づくり、丁寧な対応
24	核家族でも安心して日中に仕事ができたり、ちょっとした買い物に行く時に、地域の「子育てマイスター」の様な方々が地域にたくさんおられ、地域で子どもを見守るというような制度があれば、核家族や引っ越してきて近隣に親戚等血縁者がいずとも安心できるのではないのでしょうか？ そしてなにより、高島は子育てしやすい街というPRを市民の口コミで行う。
25	市外に住んでいる人に市内に住むよう声をかけてみる。その時に高島市が行っている制度(補助金など)を知っていると魅力を伝えやすいと思う。
26	地元志向の考え方を根付かせる。孝行(親を見る、地域への恩返し)何を与えられたか認識する必要がある。集落行事に参加する(迎える)機会を作る。小学生でも地元行事(子ども会)に参加させない親が増加している。ましてや中高生はクラブ活動を理由に参加していない。 集落、行事＝わずらわしい、面倒⇒地域から孤立 ↓ 集落、行事＝面白い、人を知る、付き合いが生まれる

Q6 若者等の定住を促進するために、市民レベルで取り組めばよいと思う

27	<p>市外から移住してきた方に高島の良さを語ってもらう場を設けることが必要だと思います。ご質問の文言「市民レベル」という表現は、理解に苦しむのですが、市の広報等に市民の広場のような箇所を設けてもらえれば、そこに先に述べた内容のことを書いてもらうのはいかがでしょうか。また、月並みですが、日々の生活の中で口コミで高島の良さを広めていくしかないと思います。近年では、SNS等を利用している市民も多くいます。そこで、一人一人が高島のセールスマン的な発想を持って書き込みをってもらう方法もあります。</p> <p>高校まで高島市で過ごし、その後市外への進学や就職のために転出する若者が増えています。高島市内には、2校の高校があります。高島高校を例に挙げれば、全国的に同窓会組織の基盤は確固たるものです。かつて、私は高島高校東京支部の役員でしたから、その経験から以下のことを提案します。</p> <p>同窓会に地元高島市の企業の経営者やNPO法人等の団体の代表をお招きします。そして、高島市の良さを改めて語ってもらう機会を作り、若者にUターンしても自身の能力を発揮できる場があることをPRしていただくことにより、効果が期待できると考えます。</p>
28	<p>若者が定住しない理由の多くは、進学や就職などで市外へ流出していくケースがほとんどだと思います。若者の雇用問題など、根本的に解決が難しい問題が背景にあるとは思いますが、例えば小・中・高時代に地域コミュニティとの関わりが深ければ地域への愛着心が増します。地域の行事やイベントに参加したり、まちづくりに積極的に関わった経験を持つ同級生たちは市内で定住している子が多いように思います。事実、私の実家の集落では、子どもの頃から地域での取り組みや行事ごとが多く、地域内での結束が強い地域でした。今では、同世代(30代)の若者がほとんど全員集落に定住しており、地域の行事は今ではその世代が中心となり動かしています。事実、私も地元への愛着心が大変強く、Uターンした一人です。中高生も含めた若者世代が主役となれるまちづくり活動やイベント・行事等を積極的に各地域で実施できるよう、地域単位・学校単位で検討できるようになるといいと思います。</p>
29	<p>地域産業も減少している中、市内のみで雇用を生み出すのは難しいと考えます。そのため、近隣の市へ通勤、通学がもっと便利にできるよう、湖西線の本数の増加、駅周辺の駐車場の整備が重要だと思います。</p>
30	<p>空き家情報の提供(借家として)先に移住してこられている若者を中心に地元の方々も交え、これから移住を考えておられる皆さん</p>
31	<p>市民レベルでの取り組みは、高島市への熱い思いを抱いたリーダー的な人材が出てこないと思う。市外から定住した若者からの口コミが宣伝になっていくのでは。</p>
32	<p>公共の交通機関、施設の充実、就職場所の充実など、魅力ある市づくり。</p>
33	<p>若者との交流の場を多く持つ、働く場所を多くする、湖西線が便利になる、といったハード面では解決できないのがわかってきます。今まで若者と中堅の交流があったでしょうが、私は疑問に思えます。遠まわしになるかもしれませんが、実はこのことが逆に定住促進のヒントになります。若者にできることは若者に任す。たとえばイベントの企画、実行、すべての事項を若者をスタッフとして参加してもらうことの大切さを実感するべきである。</p>
34	<p>当日の配布資料、重点事業、No17、定住PR活動、都市部での出張相談会について、同封、新聞コピー、朝日新聞社広告局主催の「U・ターン相談会」に、毎年継続的に出展すべきである。私も、昨年に会場に行き見学したが、四国、山陰等、遠距離の県が多く、近くの滋賀、和歌山、京都等は出展していない。出展して、会場にて高島市が支援する、補助金200万円の交付を、もっとPRしてはどうか？昨年に出品した県についても、具体的に補助金をPRしている県は全くなかった。この制度はH29年3月で終了であるが、さらに期間延長をすべきである。</p>
35	<p>農業や林業・漁業への若者の就労促進など、まちの活性化と若者定住が一体的に進むような取り組みがあれば…。第1次産業に特化した学校の創設、農業の就労形態をシフト制にして、組織化すれば若者が就労しやすくなるのでは…。また社会的ひきこもりと呼ばれる社会参加が難しい人にとっても、就労の関口が広がるのでは。</p>
36	<p>若い人に高島市を知ってもらう必要があると思います。滋賀県といえば大津、草津、長浜くらいは知られているかなあ。</p>

Q6 若者等の定住を促進するために、市民レベルで取り組みばよいと思う

37	潜在的に移住したいと思っている若者と、市内移住者や地元住民とのなにかしらの交流の機会を増やすことで、移住を考えるきっかけになるのでは？ 自分自身が、移住前に高島市内の移住者との交流が大きなきっかけとなりました。例えば、JOINというサイトがありますが、色々な交流イベントの掲示があり、拝見させて頂いているだけで、参考になるアイデアがあります。
38	若者の定住も出産もすべて根本の考え方がしっかりし、その上で各対策を立て、実行していけばあえてアイデアを出さずとも定住し、他からも転入してくると思います。魅力ある自治体にすれば定住も出産も全国一になる。その為には、強い精神力と実行力を持つこと。住民にもガマンしてもらうこと。八方美人ではことは成就しない。
39	働く場所がやはり少ないので多くの若者はやはり帰ってこれません。高島は好きでもJRなども止まることが多くやはり利便性も悪いと感じます。
40	観光における取組が中途半端な気がする。湖西線の活用も含め、PR不足もある。
41	自分の住む町に誇りを持つこと。自分の地域の魅力や、何はなくてもこれがある、というものを自分の言葉で人に話す、子どもの前で語ることが郷土愛を育む一番のタネになると思います。 また、地元や余所者に限らず、学生のうちから祭りや仕事など伝統のたすきを渡す等、世代交代の準備をしていけば、責任感を感じる若者は定着せざるを得ないのではないのでしょうか。背負うものがあるとは格好いい、と洗脳しながら。

Q7 市が取り組む若者の定住促進や子育て支援施策等について、市が取り組むべき課題として重要度が高いと思われますか。若者の定住を促進する上で重要かどうかについて5段階で評価し、当てはまるものに○

※ 重要度が高いと思う方から 5点、4点、3点、2点、1点と評価
 モニター回答数が46のため、5点×46人＝230点が最も重要度が高いと評価されている。

No.	事業名・施策名	評点合計 (満点=230)	重要度 (評点/230)	5点をつ けた人数	1点をつ けた人数
1	住宅の取得にかかる支援	161	70.0%	11	2
2	空き家を活用した住宅確保支援	164	71.3%	10	1
3	子どもの保育等の支援事業	192	83.5%	22	1
4	安心して出産できるための支援	186	80.9%	18	0
5	子どもの医療費助成	175	76.1%	16	2
6	特色ある教育の実践	170	73.9%	14	1
7	困難を有する子ども・若者の支援	168	73.0%	11	1
8	親の子育てを支援する環境づくり事業	159	69.1%	10	0
9	給食支援・食育推進	161	70.0%	10	0
10	学童保育の充実	175	76.1%	13	0
11	結婚から育児までの相談・支援	143	62.2%	5	1
12	雇用の創出	193	83.9%	25	2
13	起業支援	175	76.1%	14	1
14	就職支援・労働力の確保	181	78.7%	15	1
15	新規就農支援事業	172	74.8%	14	0
16	都市基盤の整備	148	64.3%	8	3
17	円滑な移住・定住への誘導	159	69.1%	9	2
18	地域の担い手の発掘・育成	179	77.8%	11	0

Q 8 その他、市や地域における定住環境等においてお気づきの点があればご記入ください。

1	<p>モニター説明会でも質問がありました。が団体の名前ぐらい公表すべきだと思います。どうせ個人の意見など「聞いておいてやる」式の昔のやり方が思われます。</p> <p>県政モニターでは当時の知事さんと直接話が出来ましたし、テレビ(びわこテレビ)でも放映していました。紙に書いて何回もアンケートするより1回でも全員が話し合える場の方が有効ではないかと思いますが。</p>
2	<p>①定住支援の制度のアピール(都会でのアピール)が足りないのでは?(これから充実したらどうでしょうか?)</p> <p>②定住とはあまり関係ないかもしれませんが、市内農家の方の高齢化対策、若者の農業への囲い込みなども検討しないといけません。</p> <p>③湖西線の不便さの解消。京都まで1時間程で行けるが、湖西線は風で停まる。そのため高島に住みたいと思わない。快速(夜)も無い。など。</p>
3	<p>①実例で申し訳ないが、安曇川の私企業シグマックスのように、この地で成長した人が、地元に戻って起業したような私企業に市が助成してやれたらと思う。二番手、三番手が出てくるようには思わないが、公務員天国であるような市にだけはしてはいけない。公務員にも生活はあるが、現に高島市内で働いているものが、給料面などで大きな差がある場合は市が可能額の補助金を出して(減税も可能)、それによって差が出ないようにできないものか。そんなことができれば若者は地域に残る可能性が出てくる。</p> <p>②市の各種委員(数は知れているが)、あのような仕事も特に専門性が不要でないなら公務員でない現職もつけるようにしてはどうだろう。議員が自分の仕事を持ちながらもしている人があるのだから、特別職も若い人がついてよいはず。</p> <p>③夢のようなことを書けば、金沢、福井、今津(高島市)、大津、京都、大阪、神戸を結ぶリニアモーターカーでもできれば高島市も見捨てられるようなことはあるまい。</p>
4	<p>人口減少、高齢化社会になって、地域全体の間人間関係が益々希薄になってきているので定住環境は悪化している。世代間の交流、小中高生との交流を深める必要がある。</p>
5	<p>雇用事業者に対し、子育て年代従業員への労働条件の改善(時間帯など)を申し入れする。</p>
6	<p>【住宅の事】</p> <p>①地域にある空き家を提供してもらう為に、地域の人にとっても使ってもらって良かったと言えるようにすることが必要です。なので、地域の空き家を抱えていらっしゃる方に、どうしたら、提供してもらえるか聞く取り組みをしてはどうでしょうか。</p> <p>よく聞くのは、空き家と言え、家財道具、仏壇などがそのまま、片づけられない。</p> <p>貸す場合は、改装しなければそのままでは住めない。改装費用がかかる。</p> <p>朽ちて行くのをまっている? 親戚、近所の手前、難しい。よそから人が入ってくることに抵抗がある。何となく不安。いろいろあると思います。既に良くご存じの事と思います。それらを解決する方法を考えることが大事で、その解決ができなければ、空き家は提供されないのではないのでしょうか。</p> <p>②既に移住してきた方に、移住した時に困ったこと、また良かったことを聞いてみてはどうでしょう。また、暮らしてみて現時点での状況を聞いてみてはどうでしょう。</p> <p>③他地域で人口の増をしているところの取り組みから学んではいかがでしょうか。モニターに聞くより、進んでいるところから学ぶ事が多いと思います。</p>

Q 8 その他、市や地域における定住環境等においてお気づきの点があればご記入ください。

7	<p>【雇用の事】 雇用を如何に創るか 企業誘致は可能性が低く、これからの時代には雇用を増やすことにならないと思います。 ワークシェアをすることができると、もっと仕事が増えます。公共的な仕事をみんなで支えるのも良いか と思います。 また、以前から言われていますが、高島市にある資源を活用して事業をつくることだと思います。市民 の起業がもっとあるといいですね。 自然資源は、エネルギーの燃料になります。エネルギーの地産地消の仕組みを創ることで、お金が地 域に回り、雇用が生まれます。 例えば、 ・木の駅プロジェクトで、山の放置されている木材をエネルギーに変える。山から木を出す仕事、木材 を薪に変える仕事で雇用が生まれます。 ・小水力発電、ソーラーパネルを可能なところに設置し、地域の為に使う仕組みをつくり、スマートシ ティで、電気トラック、電気トラクター、各地に充電スポットをつくる。そこに様々な雇用が生まれます。 自給的暮らしができるように、支援する。 休耕地が増加しています。移住者へ安く貸し出し、米、野菜づくりで自給的暮らしができるように、高島 市が間に入り、支援する。 それらを進めるために。いろんなグループ、異業種の人たちが交流し、コラボレーションで新しい起業 ができるといいですね。そんな場づくりができればいいのでは。商工会なども活躍してもらえるといいで すね。 行政に頼るより、民間で事業として成り立つ起業をする。行政は支援という立場でいいと思います。例 えば、空家の改修と貸家事業。菜園付き住宅建設。</p>
8	<p>私も、7年前に家族で京都から空き家をリフォームし、住んでいます。当時、子どもは幼稚園へ入園す る年齢で、入園説明会では驚きました。無料バス、長時間の保育、給食があることに。最近ではそれら の園も大きく、美しくなり、本当に恵まれていると思います。ただ、大きな問題は、主人がJRで京都へ通 うことです。風が吹くと止まり、本数も少なく、新快速も1時間に1本、帰る際は、普通電車しかありませ ん。高い定期代を払っているのに、堅田まで迎えに行くことは多々あります・・・ 教育現場では、学力向上と勉強を頑張っていますが、頑張れば、→大学となります。何か、矛盾を感じ ます。 ・高島で暮らそうのチラシは市外の不動産屋さんに宣伝してもらった方がいいと思います。 こういったことを知らない人が多いと思います。高島に遊びに来た子は、本当にいいところだと口をそ ろえて言います。しかし、移住に至らないのは、雪、交通がネックのようです。 高島で暮らすには、雪が好きな方が向いていると思うので、スキー場にチラシをがって宣伝したらいい と思います。</p>
9	<p>もっと、宅地住宅の再生について若い者だけでなく、他の方にも、優遇してほしいです。</p>
10	<p>高島市に帰ってくるとほっとする。住環境(人間関係)、自然環境も趣味環境も。 今日も元気で居られました。おせっかいもしました、されました。特に京都の「かどはき」はいいですね。 いい習慣ですね。 旧町村の時の朽木村株式会社の発想は今の時代にピッタリ。この朽木村の発想を高島市にあてはめ られないだろうか！</p>
11	<p>市内の目立つところに休業廃業した企業の建物が侘しく存在する。住環境として決して好ましくない。 市当局から積極的に働きかけをして、整理、活用を図ってもらいたい。(安曇川駅周辺、JR近江今津駅 近くの公団住宅)</p>
12	<p>①芸能支えを充実する。若者が芸能界を目指して東京・大阪・ヨーロッパ・アメリカに行くのをくい止め る。市のやっているギター講座を受講したが、先生が一人で複数の人を教えるのでは理解するのが難 しい。びわ湖青少年演劇講座はここ数年やっていない。大津市の市民劇団に勉強に行ったら若者もい た。 ②高島市は娯楽振興に力を入れるべきだ。高島のご自慢大会を開催し、優勝者にはトロフィーを渡 す。入場料有料500円くらいにして収益を上げる。 ③ダンス教室を作り男女の出会えるスポットを作る。 面白い市を作ることが第一だ。面白くないから人が住まないのだ、男女の出会いが少ないから、都会 にナンパに出てしまうのだ。</p>

Q 8 その他、市や地域における定住環境等においてお気づきの点があればご記入ください。

13	<p>外灯が少ないし、電気がついていない外灯もある。学校から帰るときには外も暗くなっているのに、電気が少ないと心細いし怖い。もっと外灯を増やしてほしいです。</p>
14	<p>①まず、Q7の設問について、市が取り組むべき課題の重要度が高いか低いかではなく、広い視野を持って、市が取り組む方が有効的であるか、市が担う方が有効的であるかで判断した。高島市において、地域にある団体や民間企業が取り組み・担う方が有効的であればそのようにするべきかと考える。</p> <p>②高島市には現在、大学や選択肢のある専門学校等もないので、この地に生まれ育った若者は、一度は市外に出て行ってしまふことになるが、それは見聞を広げるためには有効的であると考えている。ただ、将来的に高島市が一定の条件(雇用・起業等の課題解決等、必要条件の検討・解決・制度化は必要であるが)を整えながら取り組む必要がある。</p> <p>③眼前にある課題ばかりにとらわれすぎず、柔軟に、一步引いた目線で周辺を見渡し、総合的なまちづくりを検証・検討しなければ、偏った施策ばかりが共存する地域社会になりかねないと危惧する。</p>
15	<p>定住環境の対象となるのは誰でしょうか。その対象者によって取り組みの内容は変わるのではないかと思います。</p> <p>冒頭の説明文の中にある若者定住であれば、さらに、地元出身者なのか新規移住者なのかによっても取り組み方は変わってくると考えます。私自身は、まず地元出身者が戻ってこられるような取組を最優先すべきであると考えています。地元の者が戻れない環境は、新規移住者にとってはさらに厳しい環境でしかないため、定住しようとする誘因に結びつかないのではないのでしょうか。</p> <p>では、地元出身者が戻ってきやすい環境とは、どのようなものなのでしょう。おそらく、出身者の大半は親や親族が地元に住んでおり、居住空間は確保できているが、都市部と同等の生活するための雇用や賃金の確保、文化施設、商業施設などの社会的環境に不満があるため地元に戻れないということではないのでしょうか。</p> <p>このようなことへの対応は、過去から行政で取り組まれてきていることであり、今更というようなことでもあるかもわかりません。また、現状の地方財政を考えると、今までのように来るかどうかわからない企業や商業施設の誘致に巨額な財政をつぎ込むことはできないでしょう。</p> <p>今後は、そのようなことへの対応には、住民やNPOなどの力が必要になってくると考えます。たとえば、高齢化の問題で言うと、介護施設の不足といった問題があるが、現状の介護施設は大型でいろんな地域の利用者を受け入れています。利用者の多くは、本当は自分の住んでいる地域で生活したいと望んでいるのではないのでしょうか。そのようなことを配慮し、地域ごとに少人数の施設を設置し(たとえば、空き家を利用するなど)その運営を住民やNPOなどで行う。それにより介護施設の不足解消と雇用の創出が見込めるのではないのでしょうか。その他、経済の内発化の仕組みを行政が作り、住民やNPOと連携していくことにより、さらに経済の内発化が図れ、雇用の創出が進むのではないかと考えます。</p> <p>これからの地域経済は、インフラ整備など公共投資主導としたものでは財政の負担が大きく、人口減の中で対応していくには相当なデフォルト・リスクも視野に入れておかなければならないため、ソフト中心の内発型経済への移行と、住民やNPOなどの活動を推進し、その活動がスムーズに行えるよう行政が制度化をしていくといった仕組みに変えていかねばならないのではと考えます。そうすることによって、人口減少の社会においても住民が生き生きしたまちづくりが可能になるのではと考えます。</p> <p>少し定住環境の話とずれてしまいましたが、定住環境を考えるには、だれを対象とするのか、人口減の中で空き家の増加が予想される中、それをどのように活用すべきかなど考えていかねばなりません。それを考えるにあたっては、住民や地域を無視するわけにはいきません。そのためには、住民運動や、NPOなどの組織活動を重視し、その活動を行政が支援するといった方策が必要となります。そして、それを動かすためには、内発型の経済が必要になります。そして、地域循環型の経済を作り上げることにより雇用が安定的に確保され、それが定住化につながっていくのではないかと考えます。(具体的には、何に取り組むかによって、その取組内容は変化しますが)</p>
16	<p>せめて湖西線は止めないようにすべき。</p> <p>行政は他のまねをすべきではない。たとえば、草津のまねをしたってしょうがない。それより、ここ高島でしかできないことはなにかを、知恵をしぼるべき。</p> <p>農業しかないと思うが、既存の補助金づけに慣れている農家は全くだめ。農協もだめです。</p>

Q 8 その他、市や地域における定住環境等においてお気づきの点があればご記入ください。

17	空地や道路脇等に塵が捨ててあったり、草が生い茂っている。 各自治体ではやっているが、なかなかきれいにならない。
18	新築住宅取得や、おいでよ高島・若者マイホーム支援事業など、もっと上手にアピールできれば、いい施策だと思う。
19	子どもを育てるのにたくさんの事業(ファミサポ、病児など)頑張っておられるのもわかりますが、子育てしながら働ける環境なんかと思います。 できれば9時～16時までの時間で働ける職場がほしい。仕事があつてこそ、家庭の基盤ができるのでは？と思います。いろいろあつたら大変助かるのも現実です。仕事で遅くなったり、早くなったりとみただけの場があるのは助かります。 あと産婦人科の個人医院がないのはつらいです。夜診がないと仕事がなかなか続けられません。何とかしてほしいです。 不妊治療、そこまでのレベルにいかないと助成しないというのはどうなんですかね？それまででもすごくお金がかかります。
20	①朽木の夏祭りはなぜ8月14日に開催できなくなったのですか？そのあたりにも課題解決のヒントがありそうな気がします。(私は朽木地域の住民ではありませんので全くいきさつが分からないのですが、とても寂しく感じましたので) ②定住促進も含めて高島市に魅力を感じてもらおうキャンペーンを全国展開してみてもどうか。行政も市民も協働して各地でプレゼンする場面を作る。(昨年から今年にかけて「恋チュン」の自治体VER.がyoutubeでたくさん投稿されていたが、地域や人が目に見えることとなった良い事例と感じたし、そこで垣間見た自治体と市民にはとても魅力を感じました。)
21	高島に移住された方々は、皆さん、自然環境の素晴らしさを口にされます。 私自身、リターン組ですが、主人もすごく感動していて、家庭菜園にいそしんでいます。 高島の最大の魅力である自然を守ることが重要なのではないのでしょうか。 そのためにもまず、林業や農業を大切にすべきだと思います。学校の暖房を薪ストーブにするとか、公共の施設を木造にするとか、家庭での薪ストーブに補助を出すとか。
22	今回、市政モニターをさせていただいて市が色々取り組んでおられる事業等に関心を持つ機会を得られました。と同時に、私を含め、一般住民の方が、どれだけいろいろな政策をご存知なのか、また、いろいろな制度をうまく活用されているのか疑問を感じました。 最新のメディアによる啓発だけでなく、市民レベルでの啓発も工夫していただければ・・・と感じています。
23	空き家を活用した定住支援の際に近隣住民から、若者が引っ越してくれるのはいいが、来る人がどんな人なのか、地域に関わってもらえるのかなど、様々な不安の声も上がる。 そうした際に、受け入れる側の近隣住民の不安の無い徹底した支援も必要に感じる。
24	例えば、これからは国際社会を念頭に置いた教育が必要であることから、外人の方を招き、保育から英会話(英語教育ではなく)を導入し、外国人に臆することなく接することのできる子どもたちを育成する必要があり、こういった他に類のない施策が必要。とにかく、他と同じようなことをしていてもだめだということ。 また、自然を守りながらこの素晴らしい自然と遊べる場所を提供(ヨットハーバーなど)することが定住施策になるのでは。他方、このハーバーが拠点となり、地震災害時の避難にも生かされるような複合的な効果も期待できる。何度も言うが既成概念をとった施策が必要。

Q 8 その他、市や地域における定住環境等においてお気づきの点があればご記入ください。

25	<p>どうしても核家族化は避けられないと思うが、その文化はまだ半世紀しかない。親の家、自分の家、子ども家。両親の死によって空き家管理、自宅の修繕など無駄な経費がかかる。</p> <p>また、子育て世代が新たな区画整理地に新居を構えるため数十年後には集团的老人タウン化する。</p> <p>核家族化＝経済効果UP？＝若年世代の経済的疲弊</p> <p>同居というものの考えは古いのかもしれないが、共稼ぎが大半を占める中で、自分の親(義両親)をもっと利用し世代間の交流をそこから深めるべきと思う。</p> <p>また、共稼ぎの要因は、主人の手取り額の低さ若しくは生活水準の高水準化(高学歴、旅行、飲食、住居、衣類)高水準＝使い捨て文化？</p> <p>少子化については高学歴、女性のキャリアアップと企業対応のギャップ(出産・育児)、共稼ぎ、経済的不安、晩婚化が要因に感じる。</p> <p>社会保障として生活の基本は衣・食・住だが、それを支える資金の源泉が無ければ成り立たない。</p>
26	<p>実際に定住してきた方からお伺いしたお話をベースに私の考えを述べます。高島市に移住してきた方が感じる「温度差」を縮めることが重要だと考えます。</p> <p>具体的には、市内に長く在住している市民が移住者を先入観で見ないようにすることです。特に、近畿圏以外の方だと話言葉のアクセントが違うことが違和感になっていることが多いようです。無理に、高島市の言葉に合わせようとしません。</p> <p>次に、市職員の方(特に、窓口対応の方)も他の自治体から移住してきた方に高島市の事務処理や手続きのやり方等を急激に押し付けられないような物の言い方を心掛けることが重要だと思います。</p> <p>せっかくご縁があって移住してき方にしっかりと定住してもらうためには、市民と市職員が互いに協力する必要があると考えます。</p>
27	<p>Q7であげていただいた各事業について、それぞれの分野において実際に具体的に取り組まれている事業が多々あるかと思います。私自身、実際に高島市内で定住・結婚・出産を経験して初めて、「高島市ではこういった支援事業があったんだ」と、初めて知ることばかりでした。実際に、住宅補助や育児・出産に関する補助など、ありがたいなと思った事業も多いです。よく見ると、市の広報紙やHP等では発信されていますが、こういった事業の若者の認知度は低いと思います。例えば、子育てがしやすいまち など、キャッチコピーをつくったり、のぼり旗を若者が目につきやすいような場所へ立てるなど、わかりやすい広報手段を検討されてはいかがでしょうか。「高島市に定住するとこんなメリットがある！」という情報は特に、わかりやすく若者に伝わりやすい方法で発信していただければいいと思います。</p>
28	<p>子育て支援や、住宅確保支援など、さまざまな支援に取り組まれているようですが、なかなか知られていないように思います。せっかくよい取り組みをしているので、もっと各メディアなどを使い、幅広く知ってもらえるように発信するべきだと思います。</p>
29	<p>私は今、地域の方々とのつながり以外に、なぜか移住してこられた方々との交流が多いのですが、地元の方々や移住者の方々とは常々意識の格差を感じております。自分たちの暮らしがあるこの土地の環境であったり、人のつながりであったり、それらの持てるものへの実感が強く、更にはどう子の良さを守り次世代につなげていこうか・・・という取り組みが実践的に活動しておられるのが、移住者の方々に多くみられます。勿論この地に魅力を持ち選び住まわれている訳ですから、当たり前ものを当たり前としてとらえず、持ち合わせているものがよりクリアな視点で見えるのでしょうか。彼らの多くは田畑をし、暮らしの中に土の上に身を置く時間を持っています。若者が農業をしたくて高島での暮らしを選んでいきます。そんな彼らの発信から、若者の間では高島の魅力が外に伝えられ、最近では本当に多く他の地域の友人から“高島いいとこだね～”とも言われるようになりました。</p> <p>今まで私たちは田舎の抱える問題を考える時、無いものを挙げつらねがちで、都市に追いつけとハコモノや企業の誘致にばかりに解決策を探していたように思います。しかし、地方は地方の良さを改めて確認し、地方でしかできない暮らしのあり方を見つめ直す時と感じます。人口減少は局所的なものではないですし、いかに高島に若者を引き戻すかに努めるよりも、少なければ少ないなりに、それぞれの暮らしの“質”というものを照らす行政になっていってもよいのではないのでしょうか？それは先に述べたようにハコモノや利便さだけが質の向上ととらえていた時代とは違い、地方の田舎だからこそ叶う自然と共に生きる暮らしを目指していけないのでしょうか？農のある暮らし。高島の生産者さんを高島で支える仕組み。外へ向けての発信というよりもこれからは、高島の高島市民による高島の為の取り組み・・・自立した逞しい地方となれば自ずと人は引き寄せられてこないのでしょうか？他の地方でも移住者で活気を取り戻した場所はあると思います。</p>

Q 8 その他、市や地域における定住環境等においてお気づきの点があればご記入ください。

30	<p>今の高島はそうなる要素は充分ある様に思うのですが、もう少し、移住してきて来られた若者の話を聞ける機会や、地元民と融合できる取り組みがあればいいと思います。地元民はもっと移住してこられた方々の見えるものに刺激され、可能性を気づかせてもらうチャンスが必要です。</p> <p>そこに敷居を作らず、お互いの持てる能力を共有しあう町づくりです。ハードではなくソフトとして。前回の“風と土の交響”に他県の友人を誘い、彼ら若い家族がその中でのイベントで出会った、ある夫婦が出たばかりの借家を紹介してもらうこととなり、結果その物件を買い取ることができ、改装し、定住することとなりました。高島に魅力を持ち移住したいと思いつかせる方たちには、一番の参考材料が、先に移住されておられる方々の暮らしぶりです。そんな先人の充実した生き方が伝わる様な発信は必要かもしれません。そしてこのような企画に、いかに地元民も大きく関わって行けることがこれからの高島の伸びしろとならないでしょうか。</p> <p>移住者を受け入れ、学ぶ姿勢がこれからの田舎には必要なのは、移住者が増え、都市のマネごとではない田舎独自の活気が生まれれば、自ずと、ここ地元で育った子どもたちもいつかは高島での暮らしに憧れ戻ってくるようにも思うからです。そしてローカリゼーションを考えると、グローバルな視野をふまえてこそ、目先の問題だけに振り回される事なく、暮らしの在り方の根幹に気付けるかもしれません。具体策はあげられませんが、人口減少の解決策として直結的だと思える田舎が劣る利便性の追求に走るのではなく、持てるものに気付き、伸ばし育てていく仕組みが大切で、これは小さな地方だけの問題ではなく社会全体のこれから目指すカタチだと思うです。</p>
31	<p>①どこまで支援、優遇をすれば若者定住、子育ての応援になるのかわからない。</p> <p>②Q7-4 安心して出産できるための支援については、現在市内には参加は高島病院しかなく、出産できる病院、医院が選べない状況である。これは出産を考える女性にとっては深刻な状況と考える。</p> <p>③事業を行うには、財源は必要だが、良い人材も必要ではと思う。良い人材が適切な表現かはわからないが、すべては人とのつながりで成り立っているので人材育成も大切ではと考える。</p>
32	<p>土日祝日や深夜に子どもが体調を崩した際、高島市内の病院に小児科医が不在ことが多い。いつも電話で案内されるのは、大津か長浜の、ともに車で1時間以上かかる病院です。ぜひ、市内で解決できるようにしてもらいたいです。</p>
33	<p>どこの市、地域においても若者定住・子育て応援関連施策は同様な事項を並べておられます。この多種・多様な情報発信を戦力的にPRをするかが重要であります。このようなことから、人口減少対策として、人口対策室を作ればいいと思います。</p> <p>ところで今、少しずつ耳にするものに“ESD”という言葉があります。これは社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動です。持続不可能な社会の課題を知り、その原因と向き合う。それらを解決するためにできることを考え、実際に行動する。今、このことを市、地域でアプローチすることが高島の将来のまちづくりに対する明確なビジョンが策定できるように思われます。</p> <p>遠まわしでもいい。市民、地域が一丸になって取り組んでいけるなら、住みにくいまち、商売のしにくいまち、ブランドのないまち、閉鎖的なまちから脱却することができるでしょう。</p> <p>このことが定住の一助となることを願っております。</p>
34	<p>苦言になるが、「ダイオキシンの不処理」は高島市のイメージを落としましたね！</p> <p>これは、環境課の誤った報告を、他部署が調査(監査)、発見できなかったことに由来するもので、行政(市)のすべての仕事を監査する機能(部)が、必要である。(早急に作るべし。)民間の会社には、必ず監査(会計だけでなく)部局がある。</p> <p>「人口の減少」は、あまりにもテーマが大きく、国、県、市町村が、各々諸政策を立案して予算化している。</p> <p>直近の新聞にも発表しているが、9/2、読売新聞の15年度、概算要求(国)の人口減対策、滋賀県のH26年度重要政策のあらまし(68頁の冊子)、日経新聞9/1～9/3、経済教室少子化対策を考える(3回の掲載)、そして、当日の配布書類、高島市のH26年取り組む重要事業、18項目の諸々策がある。この18項目の詳細な政策立案は、よくぞこれだけの立案を考えたと感心している。この政策の実現の為に、市役所の職員さん、全力を挙げて頑張ってください。</p>

Q 8 その他、市や地域における定住環境等においてお気づきの点があればご記入ください。

35	<p>うちは主人が神戸まで通っています。遠いのを承知でこちらに定住することを決めましたが、高島市の業者を使わずに家建てたので補助は何もありませんでした。市外の業者でも何かあればよかったのになと思います。家を買う側としては補助が少しでもあれば引っ越そうと思う人はいるとおもいます。それから、今津から乗り換えなしで神戸まで行ける電車を作ってほしいです。朝早く家を出るので必ず京都で乗り換えをしないとイケません。</p> <p>必ず電車から降りないといけないし、座れなくなるしいいことはありません。新快速でなくてもいいから直通電車を！！</p> <p>大阪方面からでもそうで、新快速でなくていいから神戸からでも一本で帰れる電車がほしい。</p> <p>それから、大学の誘致はどうでしょう。若い人が増えるし、認知度は上がると思います。</p> <p>広報活動は必要。滋賀県の湖東側は知られているけど湖西は電車も不便で田舎というイメージだけで高島市の存在はあまり知られていません。私の友達も大抵はそうです。高島市に引っ越すと言ったらみんなからどこって聞かれました。みんな関西人やけどそれくらい知られていません。</p>
36	<p>若者が高島市内の山村部の地域に移住する場合…の問題の一つが、借家があるかどうか？という事だと思います。円滑に地域に若者が移住する為には、…更なる、借家の掘り起しや、リフォーム施策等の継続が必要だと思います。</p>
37	<p>困難なことばかりだろうが実行あるのみ。 使命感を持ち。次世代の人の為、実行あるのみ。</p>
38	<p>そもそも若者が働く所がないのだから、Uターン組をしっかりと支援できる施策を充実してあげる転換の発想も必要（PRも含めて）</p>
39	<p>都市や他地域の若者の移住を推進することはもちろん重要なことだと思いますが、多少数が減ったとしても地元生まれ、地元育ちの人々をしっかりと受け止めるような地域になってほしいと思います。外からの人ばかりをちやほやすると、やっかみが生まれるし、地元の慣例を優先しすぎると移住者は居場所なくはじき出されてしまうこともあり、いくら外から人が入ってきても、土地の人間に愛されないような地域は悲しいし、総入れ替えになってしまうと、高島ではない「ただの田舎」では、人だけがが増えても意味がないと思うからです。結局は人間関係だと思いますが、地元の人と移住者が力を合わせて地域を支えていけるような、絶妙な距離感を市役所も保っていただけたらと思います。</p>